

<人総研研究プロジェクト紹介>



Advanced Research Center
for Human Sciences
早稲田大学 人間総合研究センター

◆研究テーマ・内容

人間の尊厳に関する人間科学的学際研究

本研究は、「人間の尊厳」について人間科学の視点から学際的に共同研究を行なうものである。2025年4月1日から2026年3月31日までのあいだに、連続研究会の開催、公開シンポジウムの開催、海外研究、研究成果の刊行などを実施した。研究メンバーは、森岡正博（人間科学学術院教授、代表者）、笹月桃子（人間科学学術院教授）、福島勲（人間科学学術院教授）、横野恵（社会科学総合学術院准教授）、中村涼（人間科学学術院助手）であった。

以下に研究内容を概略する。

【尊厳をめぐる連続研究会の開催】

尊厳の概念をめぐるクローズドの研究会を開催した。

- ・4月8日 打合せ会および研究計画の策定
- ・5月16日 笹月桃子：「子どもの最善の利益」の視点から見た尊厳の概念の検討
- ・7月9日 森岡正博：「身体の尊厳」の概念とカントの尊厳概念の比較検討
- ・8月6日 横野恵：コンウェイ事件を例にとった死に関する選択肢と尊厳の考察
- ・9月11日 福島勲：ピオスとゾーエーの概念を手掛かりにした人間の尊厳の探求
- ・11月26日 中村涼：動物の尊厳をカント倫理と現代動物倫理から考察する

【公開シンポジウムの開催】

- ・10月11日 「小児神経の倫理を語らう会」早稲田キャンパスで共催。子どもの最善の利益、尊厳を議論。
- ・2月1日 「どうぶつ倫理かいぎ」早稲田キャンパスで共催。動物の尊厳などについて議論。
- ・2月10日 「哲学から見たロボットと人間の関係性」研究会を早稲田キャンパスで開催。ロボットの尊厳の議論。

【学会等での発表】

- ・3月1日 日本学術会議「現代の新生児医療における臨床倫理の考え方と医学的意思決定方法」で笹月桃子が小児科学会の見解についてレクチャー。
- ・3月28日 8th International Conference on Philosophy and Meaning in Life（米国・オクラホマ大学）で森岡正博が尊厳と意味について研究発表。

以上の研究における成果として、（１）人間の尊厳に関する概念的考察に新しい視点を持ち込むことができたこと、（２）日本の小児医療の現場での生命倫理について新たな提言を行なうことができたことが、主要な研究成果である。（１）に関しては、子どもの最善の利益と子どもの尊厳のあいだには差異があるかもしれない点、尊厳を関係性に基づいて把握しようとする、関係性の網からこぼれ落ちる人間の尊厳を語り得なくなる点などが明瞭になった。これらは今後の概念的研究へと引き継がれる。（２）に関しては小児科学会・日本学術会議でのガイドライン策定の討議の場に本研究をつなげられたことが大きな成果である。

◆担当教員：森岡 正博 教授

<主な著書>

- ・森岡正博『生まれてこないほうが良かったのか？』筑摩書房、2020年
- ・森岡正博『無痛文明論』トランスビュー、2003年
- ・森岡正博『生命学に何ができるか』勁草書房、2001年

<社会的活動>

- ・International Conference on Philosophy and Meaning in Life の Steering Committee Member
- ・国際学術誌 *Journal of Philosophy of Life* 編集長